

2012年11月16日

2012年度第4回研究会（通算第47回）

1. イヌの胃捻転による外科治療 35 例の治療成績および短期的な予後評価

福岡夜間救急動物病院 井本 暁

イヌの胃捻転 35 例の犬種別例数、年齢、予後等について検討した。大型犬に多いが、シーザー、ミニチュアダックスの症例も見られた。年齢は 2 才から 19 才まで、8 才から 12 才が多かった。手術をした 33 例のうち死亡例は 2 例だった。死亡例は循環不全、ショック、胃穿孔、組織の壊死、DIC が見られた。脾摘の意義については手術時間の短縮と予後の評価に変化が見られないので、必要性が認められなかった。中医学的に見ても脾は免疫系に大きな役割があるとみられるので、脾摘は勧められない。若齢であるほど胃や靭帯の柔軟性が乏しく、血管の損傷や血行不良を生じやすい傾向にあると思われる。早期の胃減圧と循環の確保が更なる救命率の上昇をもたらす可能性がある。

2. ホメオパシーで効果があった症例

さくら動物病院 高山明久

肥満による脂肪肝に Hepeel を投与した症例。ネコの膿胸の症例を報告する。

3. 鍼治療の基本 第 6 講 関節疾患と脊椎疾患の鍼治療における七つのパターン分析

エンゼルペットクリニック 名越譲治

関節疾患と脊椎疾患は鍼治療が最も多く適用される疾患である。この疾患は痺症と呼ばれ、その病因によって、行痺、痛痺、着痺、熱痺に分類される。この 4 種の痺症の診断基準、舌診、脈診と治法、経穴を紹介する。また、近年、現代中医学によって提唱されている骨痺の概念と 3 種類の分類について説明する。骨痺は Hip dysplasia, Degenerative joint diseases, Spondylosis, Intervertebral disc diseases を含む広範な概念で、陰陽のバランスを是正することでこれらの疾患を治療することができる。

次回の研究会は 2013 年 1 月 18 日に開催予定